
BLACK LANP

秋鐘留々羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLACK LANP

【コード】

N21890

【作者名】

秋鐘留々羅

【あらすじ】

由乃とBLACK LANPを探しに行った主人公・瑠香。何かがおかしいけど…。

黒い光（前書き）

？ヤンデレが苦手な人はご遠慮ください？

黒い光

(瑠香) あゝもうすぐ着く〜っ！由乃、もう来てるかな??私・雅
瑠香は、親友・高利 由乃に呼ばれました 大事な話??がある
らしいです。あ、来た来た〜!!

「瑠香」

「由乃ッ」

「ねえ瑠香、BLACK LAMP、世界に一つしかないランプ・
・って知ってる?噂!その光についていくと、純粋な人だけ、導い
てくれるらしいけど」

「あー、知ってる!。男子が噂してるねえ」

「探してみない?明日。」

「面白そうっ!やろっ!」

「決まりね」

この予定がとんでもないことになるなんて、瑠香は予想もしなかつ
たのだ…。

当日。

「行きましょ、瑠香」

「うんっ」

茂みにいるらしいが。

「!瑠香、追って!」

いた。まぎれもなく、黒い光。一生懸命、追った。

茂みの奥深くに入った。そこにいたのは・・・

「由乃ッ!?!」

花にジョウロで水をやっている。

「由乃ではない。私は、

紀乃。」

由乃と紀乃

「紀乃…?」

私は、深い眠りに就いた。

(紀乃)

…どうする私。逃げる…??イヤイヤ…頭打つかも、この子…ま、いいか、寝させとこ…

パチ

「おはよ」

なんとなく言った。起きたから。

「紀乃さん…正直に答えてください。」

「お…おう」

「あなたと由乃って似てますよね、姉妹ですか? いやいやそうでなくても関わりありますよね案だけ似てるんだからだったら…」

「おいおいおいちよい待ち」

「君…あ、溜香? 溜香ちゃんって何者なん」

「由乃の友達です」

「おお…そつかそつか…じゃあ溜香ちゃんにだけ話すわ。」

「私は紀乃。溜香ちゃんの予想通りまあ…姉妹。義理の。でもここ最近な、由乃のくるつとる感じがすごいかな、まー監視してみたのよ。ノ…ソ…ソしたらな、これ。」

紀乃は黒い光を「ポワツ」とあげ、

「これを必死に探しとったんや」

「ふーん…そうなんですか」

「あ…もし万が一由乃が襲ってきたら私を呼んだらいいよ。私こう見えても黒魔術できるかな!」

「分かりました、由乃とはあまり関わりを持たないように、します」

「あ、さみしくなったら来てね〜〜」

「では」

(璫香)

なんかいい人そうだなー。

由乃と紀乃（後書き）

どうでしたか？次もぜひぜひヨンデミテネ

空気人間

転校生が来る。教室はそのことではいっぱいだった。

「ハイ、しーずーかーにー！」

おおっ、来たっ。

「転校生の、来見くみ 始良あじさんです。自己紹介をどうぞ」

「よろしく願います」

定番。超定番。なんかやろうよ。AKB48のだんすやろーよ。

それから一週間。

「空気人間」とよばれている。あの転校生は。必要最低限のことしかしない、と有名になった。中にはファンもいたようす。

この、空気人間と、友好関係を築くなんてしない、…とおもっていたが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2189o/>

BLACK LANP

2010年10月10日01時35分発行